

第9回 建設施工における現場作業支援のDXに関するWG

1. 日時

令和6年7月1日（月） 15:00～17:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階インフラDXルーム

3. 出席者（敬称略） 参加 ○印：対面、W印：Web

<学識者委員>（五十音順）

W 小林泰三（立命館大学、副WG長）、 W 建山和由（立命館大）、 ○永谷圭司（東京大）、
W 西尾真由子（筑波大）、 ○松尾亜紀子（慶応大）、 ○油田信一（芝浦工大、WG長）

4. 議事

（1）第8回WG（2月14日）のフォローアップ

（2）令和6年度の調査検討方針

①パワーアシストスーツ（PAS） ②XR技術（視覚拡張技術） ③ドローン技術

（3）情報提供

<主な意見>

（1）意見なし

（2）令和6年度の調査検討方針

①パワーアシストスーツ（PAS）

○現場試験では気温、湿度など環境条件も併せて計測できるとよい。

○アンケートに加え、心拍数の計測も検討できるとよい。

○アンケートでは、使用する個人の特性（腰痛の有無、年齢、体力等）も確認した方がよい。

○アンケートの頻度について検討するとよい。

○アクティブ型を活用している事例では、各社が自主的に購入した機種種の調査をするとよい。

②XR技術（視覚拡張技術）

○XR技術は活用するデータの内容が重要であり、技術と連携していく際には注意が必要である。

○XR技術ではデータを扱う人の感性や、実際の作業とのマッチングになり、技術の評価が難しいため工夫が必要。

③ドローン技術

○現在一般化されていない活用方法についてキャッチアップしていくとよい。

○航空法の規制緩和の状況と活用について整理していくとよい。

(3) 意見なし

●今後の予定について

○次回 WG は R7 年 2 月頃開催予定。

以上